

主 題：捧げ物

聖書箇所：コリント人への手紙第二 9章6-11節

「常に主がお喜びになることを行ないなさい」と、これが私たちクリスチャンに対して主が望んでおられることだとこれまで学んで来ました。どんなときでも、だれに対してでも、主がお喜びになること、主の前に正しいことを行ない続けていきなさいといひます。今日は、それからもう一歩進んでみたいと思います。次のことを考えてみてください。私たちが善を行なっていれば、神が望んでおられることを行なっていれば、主がお喜びになるのかどうかです。たとえば、私たちが自分の賜物を用いて一生懸命主に仕えている、奉仕をしている、日々熱心に主との交わりであるデボーションのときをもっている、毎週欠かさず礼拝や様々な集会に出席している、だから、神は喜んでくださると…。果たして、そうでしょうか？神が望んでおられることを私たちが行なっているから神は喜ばれるのでしょうか？

皆さんもよくお分かりのように、神が望んでおられるのは、どのような行ないを為すか？ではなく、私たちがどのような心で歩んでいるかということです。なぜなら、あのパリサイ人たちは神の律法に忠実に従おうとしていました。神の命令に従おうとしていました。しかし、悲しいことに、神は彼らのことを喜んでおられませんでした。私たちがどうしても思い違いをしてしまうのは、このようなことをしているから、こういう働きをしているから、こういうところに出席しているから、だから、神は喜んでくださるに違いないと思うことです。考えなければいけないことは、確かに、神がお喜びになることをしているけれど、心が正しくなければ神はお喜びにならないということです。それは皆さんもよくご存じのことです。神が関心をもっておられるのはあなたの心です。どのような思いをもって、どのような心をもってその働きを為しているのか？ということです。

今日、私たちは「献金」について学んでいきます。私たちの「捧げ物」について学びます。なぜ、このことを今学ぶのか？私たちはどちらかと言うと、余りお金のことについて話したくないという人間的な思いがありますが、みことばを見ていくと、この「主に捧げる」ということは大切なことであることに気付かされます。ですから、私たちはそのことをしっかりと学ばなければいけません。なぜなら、私たちは確かに献金をしています。先ほど見たように、その行ないが必ずしも神に喜ばれていない可能性があるからです。だから、私たちはみことばを通してどのような献金を主がお喜びになるのか？そのことをしっかりと学ぶことが必要です。なぜなら、私たちは私たちが為すことすべてを通して神に喜んでいただきたいと願っているからです。

今日のテキストはⅡコリント9：6-11です。実は、このⅡコリント8-9章には、募金のこと記されています。飢餓によって困窮していたユダヤにある教会のクリスチャンを助けるために、パウロは募金を募ったのです。今日の箇所はそのことと関連しています。この飢饉のことは使徒の働き11章にこのようなことが起こったと記されています。11：27-30「:27 そのころ、預言者たちがエルサレムからアンテオケに下って来た。:28 その中のひとりでアガボという人が立って、世界中に大ききんが起ると御霊によって預言したが、はたしてそれがクラウデオの治世に起こった。」、大体、紀元41年から54年の間のことです。「:29 そこで、弟子たちは、それぞれの力に応じて、ユダヤに住んでいる兄弟たちに救援の物を送ることに決めた。:30 彼らはそれを実行して、バルナバとサウロの手によって長老たちに送った。」、つまり、バルナバとサウロを使って、エルサレム教会の長老たちに募金を送ることにしたと言うのです。

ですから、ユダヤ地方に大変な飢饉が起こって、多くのクリスチャンが貧しさの中で苦しんでいたのです。そこで、パウロたちはエルサレム教会に献金を送ろうということで、募金を集めるのです。このようなことが背景にあるのです。確かに、このように必要を覚えている教会の兄弟姉妹たちに対する援助が記されているのですが、この箇所には私たちが学ぶべき新約の献金に関して最も明確な教えを見ることができます。というのは、新約聖書の中には具体的に明確に献金に関する教えは出て来ないのです。この箇所は私たちに主に喜ばれる献金をささげるための大切な心得というものを教えてくれます。今から、三つのことを見ていきます。どのような心をもって主にささげることを主が喜んでくださるのか？

☆主に喜ばれる献金を捧げるための大切な心得

A. 捧げ物に対する正しい心得 6-7節

三つのことはⅡコリント9：7に書かれています。「ひとりひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は喜んで与える人を愛してください。」、神がお喜びになる献金の正しい心の姿勢が教えられています。

1. 喜びをもって : 渋々するのであってはならない

「いやいやながらでなく、」とは「自分がしたことへの後悔がもたらした喜びのない不幸せな状態」のことです。こういうことです。ある人は自分が捧げた献金を後悔しているのです。あんなに捧げなかったらよかった！とか、あんなに捧げたから今自分の生活はこのように厳しいのだと言って、捧げたことを後悔している人たちです。このような心の態度は正しくないと言うのです。では、なぜ、このような心の態度をもってしまうのでしょうか？一番大きな問題は、その人が神よりもこの世のものを愛してしまっているからです。というのは、同じ9章の5節のみことばを見てください。後半に「どうか、この献金を、惜しみながらするのではなく、」とありますが、この「惜しみながら」ということばは新約聖書に10回出て来ます。「貪欲、むさぼり」と訳されます。つまり、「惜しみながらする」とは「他の人よりもより多くのものを所有したいという強い願望」です。他の人よりも多くのものを持っていたいという願望を表わすことばです。そういう願いをもっているから、神にお捧げしようなどとは思いません。もっと自分のために、もっと自分のほしいものを得るために、与えられているお金を用いようとするのです。

恐らく、このような人たちが捧げるものはこのように言えるでしょう。神から与えられたお金の中で、自分が必要と考えるあらゆるものを差し引いたその残金から捧げるのです。また、それだけでなく、願わくは、捧げないで済むならと思います。ですから、捧げるとしても「いやいや」するのです。パウロはそのような捧げ物は主に喜ばれないと教えます。なぜなら、5節のその後を見てください。このように教えているからです。「…好意に満ちた贈り物として用意しておいてください。」と、彼は献金とは「好意に満ちた贈り物」とであると言います。このことばは新約聖書に16回も出て来ますが、その中の7回は「祝福」と訳されています。捧げることは私にとって祝福であると言うのです。そして、喜んで捧げるものです。「いやいや」とか「渋々」ではなく、喜んで自ら感謝をもって捧げるものであると。

まさに、それがⅡコリント8章に記されている「マケドニヤの諸教会」の姿でした。8：2にこのように書かれています。「苦しみゆえの激しい試練の中にあっても、彼らの満ちあふれる喜びは、その極度の貧しさにもかかわらず、あふれ出て、その惜しみなく施す富となったのです。」と。マケドニヤの諸教会は大変な貧しさの中にありました。恐らく、私たちが経験したことのない貧しさだったのでしょうか。その中にあっても驚くべきことに彼らは捧げたのです。なぜなら、彼らのうちには喜びがあったからです。しかも、その喜びは「満ちあふれる喜び」でした。彼ら信仰者の心の中には満ち溢れ出る喜びがあったのです。それで彼らは喜んで捧げ物をしたと、パウロはこのように教えています。喜びがそのような行為へと駆り立てていったのです。

もし、私たちが彼らの立場に自らを置いたとして、「神さま、どうかこの貧困の中から何とか救い出してください。そうすれば、あなたに感謝します。」と思うかもしれません。もしかすると、その人は「私こそみな助けを受けるのにふさわしいです。私と与えるなんてとんでもない。私は受けて当然です。」と思って、与えてくれない人をのろったかもしれません。しかし、聖書が教えることは、マケドニヤの人たちは貧しさの中にあっても喜びを失うことがなかったのです。その喜びがこのようすばらしい行動を生み出したのです。ですから、こういうことが言えます。大変な貧しさ、大変な苦しみの中にあってもそれに勝る喜びをもつことができるということです。

◎そのような喜びを彼らにもたらしたのは何でしょう？

もうすでに見たことですが、少なくとも、この8章のみことばが私たちに二つの秘訣を教えています。

1) 主の前を正しく歩んでいた 5節

「そして、私たちの期待以上に、神のみこころに従って、まず自分自身を主にささげ、また、私たちにもゆだねてくれました。」、つまり、このマケドニヤ諸教会のクリスチャンたちは主のみこころに従って生きていたのです。神のみこころに従って生きていたのです。彼らは神の前を正しく生きていたのです。その結果、彼らはこのような溢れるばかりの喜びをもっていたのです。私たちにも同じことが言えます。あなたが喜びに満たされ続けていくのは、あなたが理想とする環境にあなたが居るからではなくて、主の前を正しく生きているからです。まさに、そのように生きていたのがこのマケドニヤのクリスチャンたちでした。

2) 主なる神の恵みを覚えていた 9節

神がどんなにすばらしいことをしてくださったのか、そのことを彼らは忘れていません。8章9節をご覧ください。「あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。…」、主の恵みを知っているといます。つまり、このマケドニヤのクリスチャンたちは、主イエス・キリストが私のためにどんなにすばらしいことをしてくださったのか、どんな犠牲を払ってくださったのか、そのことを忘れていなかったのです。その結果、彼らは喜びに満ち溢れて、そして、主が喜ばれる働きを継続して行っていたのです。

主がお喜びになる捧げ物を捧げるためには、まず、あなたの心が主に対して喜んでいてどうかです。義務感でやっていませんか？渋々やっていませんか？そのような捧げ物を神はお喜びにならないという

うことです。

2. 積極的に 7節

7節に「強いられてでもなく、」とあります。強制されてするのではないということです。マケドニアのクリスチャンたちを見ると、彼らはエルサレム教会のユダヤ地方のクリスチャンたちが飢饉によって大変な必要を覚えているということを知りました。彼らは「我々は貧しいのです。私たちも多くの必要を抱えているのです。」とは言わなかった。彼らは必要を覚えている人たちのために何ができるかを考え、何かをしようとし、実際に行動に出たのです。自分たちにできることを考えて彼らは行動したのです。8章4節にこのように記されています。「聖徒たちをささえる交わりの恵みにあずかりたいと、熱心に私たちに願ったのです。」と。これがマケドニア教会の姿です。つまり、このマケドニアのクリスチャンたちはユダヤの貧窮しているクリスチャンたちを支える捧げ物を捧げることを恵みであると表現しているのです。つまり、その意味することは、彼らは捧げることを義務だと思わないで、特権だと思っていたということです。必要を覚えている彼らのために自分たちが捧げることができる、それはすばらしい特権だと思って彼らは捧げたのみことばは教えています。私たちにとっても主にお捧げする献金を私たちは義務でしていません。これは私たちに与えられた特権なのです。

そして、もう一つ、この4節に「ささえる交わりの」とあります。マケドニアのクリスチャンたちはエルサレム教会やユダヤ地方のクリスチャンたちの必要を覚えたときに、彼らのことは自分たちの家族である、彼らは私たちの霊的兄弟姉妹であると思って、彼らのために喜んで捧げ物をしました。もちろん、彼らが捧げた金額は微々たるものだったでしょう。でも、この箇所を見ると、神はいくら捧げたか？とは聞いておられません。それに関心をもっておられません。どのような心で彼らが捧げたかを見ておられます。マケドニアのクリスチャンたちは積極的に喜んで捧げ物をしました。

3. 犠牲をもって 7節

もう一つ、7節に「心で決めたとおりにしなさい。」とあります。犠牲をもって捧げるということです。「心で決めたとおりに」とは「前もって決めておく」という意味をもったことばです。その場で決めるのではなく前もってあなたが心で決めなさいと言うのです。主にこれだけお返ししよう、これだけ主にお捧げしよう。Iコリント16:2を見ると、今私たちが見ている献金についてこのように言っています。「私がそちらに行ってから献金を集めるようなことがないように、あなたがたはおのおの、いつも週の初めの日に、収入に応じて、手もとにそれをたくわえておきなさい。」と。パウロはここでコリント教会の人たちに大切なことを話しています。二つのことを教えています。

(1) 自分で決めた額を捧げる

「収入に応じて」とあります。自分で決めるということです。新約聖書にはあなたは収入の何割を捧げなさいとは教えていません。いくらの金額を捧げなさいとも教えられていません。新約聖書が教えるのは「自分自身でそれを決めなさい」です。そして、すべての信仰者が捧げ物を為すのです。

(2) 週の初めの日に捧げる

初代教会のクリスチャンたちは週の初めに集まりをもっていたことが分かります。彼らは今の私たちと同じように日曜日に集まっていたのです。

もう一度、IIコリント8章に戻ってください。

◎犠牲的に捧げることについて

例1. マケドニアのクリスチャン

8:3に「私はあかしします。彼らは自ら進んで、力に応じ、いや力以上にささげ、」と記されています。ですから、マケドニアの諸教会は力以上にささげた、つまり、彼らは犠牲的に捧げたのです。有り余るものの中からその一部を捧げたわけではありません。彼らは犠牲的に捧げました。なぜ、彼らはこのように犠牲的な捧げ物をしたのでしょうか？先ほど見たように、彼らは主イエス・キリストのその救いのみわざを忘れることがなかったからです。私たちが捧げることは、神が為してくださったことへの私たちの信仰の応答です。

例2. 主イエス・キリスト

主イエス・キリストに犠牲の完全な模範を見ます。8:9のみことばを見てください。「あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるためです。」と。何のことを言っているのでしょうか？主イエス・キリストが人となって来られ、主イエス・キリストが十字架で死なれ、主イエス・キリストがあなたに救いを与えてくださったということです。創造主なる神が被造物の一人となられた、人となられたのです。そして、その方があなたの身代わりとなって十字架で死んでくださり、あなたの罪のためにすばらしい救いを備えてくださったのです。そして、キリストの貧しさによって、あなた自身が富む者となった、救いに与ることです。主イエス・キリストが大変な代価を払

ってくださることによって、あなたは富む者となった、救いに与る、祝福に与る者となったのです。犠牲の完全な模範です。彼らはよく分かっていたのです。

◎主イエス・キリストの愛とは？

(1) 行ないの伴った愛

(2) 犠牲の伴った愛

だから、彼らも喜んで犠牲を払ったのです。救い主を信じこの救いに与った者たちは、聖霊なる神によって主イエス・キリストに似た者に変えられていきます。愛する人たちのために、彼らの必要のために喜んで犠牲を払っていきこうと、そのような人へと変えられていくのです。まさに、マケドニヤのクリスチャンたちはそのような歩みをしてきたことが見て取ることができます。

Ⅱコリント9：6を見てください。マケドニヤのクリスチャンたちは自分の必要を除いた残りの一部を捧げたわけではありません。彼らは犠牲的に喜んで、主イエス・キリストの模範に倣って捧げました。6節「私はこう考えます。少しだけ蒔く者は、少しだけ刈り取り、豊かに蒔く者は、豊かに刈り取ります。」、これはすばらしい真理です。私たちが主のために喜んで捧げるなら主は私たちに豊かにしてくださるが、主に対して少ししか捧げないならそれにふさわしい報いを受けると言います。私たちの考えることと少し違います。私たちは自分の生活をまず優先して残りを捧げるということです。それは聖書の教えではありません。そのことは後で見ます。少なくとも、聖書が私たちに約束することは、少しだけ主に捧げる者は少しだけ主からいただく、でも、主に喜んで大いに捧げる者は主ご自身が豊かに与えてくださるということです。これが神の真理です。

三つの心得を見て来ました。喜びをもって、積極的に、犠牲的に喜んで捧げなさいと。このような心の態度をもって捧げるなら主はそれを喜んでお受けくださると教えています。

B. 主からの約束

7節からを見ると「主からの約束」が記されています。そのようにあなたが主に喜んで捧げるなら、積極的に捧げるなら、犠牲的に捧げるなら、主はこのような約束をあなたに与えてくださいます。

1. 祝福 7節

一つはあなたへの祝福です。7節の後半に「…神は喜んで与える人を愛してくださいます。」とあります。この「喜んで」とは「自ら進んで何かを行なう、熱心な」ということです。つまり、ここで言われている人は、捧げることを喜びを自ら進んで、熱心に行っているのです。その人たちに対する神の約束は「神は愛してくださる」です。主は確かに私たちに愛して下さっています。しかし、このように捧げる者たちを神は特別に愛してくれると言うのです。それが神の約束です。それが神の祝福の約束です。

2. 充足 8節

満ち足りること、満足です。8節「神は、あなたがたを、常にすべてのことに満ち足りて、すべての良いわざにあふれる者とするために、あらゆる恵みをあふれるばかり与えることのできる方です。」と。パウロはここで神はどのようなお方であるかを説明しています。神はあなたがたに「あらゆる恵みをあふれるばかり与えることのできる方です。」と言います。そのような文章が並んで、その後、目的を表わす接続詞が付いています。「常にすべてのことに満ち足りて」と、神はこのような目的のためにそのように為すと言います。特に、8節の最初に出て来ることばを覚えてください。それは「できる方」と訳されていることばです。ダイナマイトの語源になっていることばです。力がある、どんなことでもできるということです。そのことばが最初に出ているのです。

つまり、パウロはこの8節で、この神はどんなことでもできる全能のお方だということを最初に明らかにしたのです。それを強調しているのです。そして、その後で「神は、…あらゆる恵みをあふれるばかり与えることのできる方です。」と言います。その後何のためにそのようにするのかという目的が記されています。「あなたがたを、常にすべてのことに満ち足りて、すべての良いわざにあふれる者とするために、」と。神はあなたにあふれるばかりの恵みを与えてくださる、それは、あなた自身が「常にすべてのことに満ち足り続ける」ことを経験をするということです。「常にすべてのことにおいてあらゆる充足を得る、得続ける」とここを直訳するとこのようになります。つまり、パウロは「神だけがあなたに本当の満足を与え続けてくださるお方だ」と言うのです。

ということは、私たちは本当の満足を得たいと欲していろいろな方策を考えます。このようなものを手にしたい、こういう生活ができたなら…と、いろいろなことを考えます。しかし、みことばは本当の満足は神だけがお与えになると教えます。神は常にすべてのことにおいて、あらゆる満足、充足をあなたに与え続けることができると。あなたはそれを神からいつも得続けることができると。そして、「すべての良いわざにあふれる者とする」と言います。「すべての良いわざ」とは捧げ続けること、その良いわざのことです。

そうすると、先に見たマケドニヤの諸教会がなぜその貧しさの中で捧げ続けていったのか？その秘訣

を知ることになります。マケドニヤの諸教会は信仰のゆえに大変な困難を経験していました。ところが、彼らは主を見上げて生きました。主の前を正しく生きたのです。そうすることによって神は彼らに本当の満足を与え続けたのです。そして、彼らは本当の満足を得ているゆえに、彼らはそのことを喜び満足をくださっている神に喜んで捧げたのです。ですから、彼らが貧しさの中でも捧げることができたのは神だけが与えることのできる本当の満足を得ていたからです。クリスチャンの皆さん、神の約束はあなたにその本当の満足をくださるといことです。そして、その約束を経験している人たちは、このマケドニヤのクリスチャンたちがそうであったように、喜んで主に捧げ物をするのです。

8節には、神はこのような方であると記されていました。神はあなたのうちに働いて、常にすべてのことにおいてあらゆる充足を得るように、また、得続けるように導くことができるのです。あなたが本当の満足をもって歩み続けること、それが私たちの神だと言います。ですから、最初に「できる」というその力を強調したのです。私たちが何度もみことばを通して教えられているように、クリスチャンにはすごい祝福がすでに約束されているのです。私たちはこの世のいかなるものをもっても得ることのできない満足をもって今日を生きることができるのです。そのようにマケドニヤのクリスチャンたちは生きたのです。そして、その証拠に彼らは喜んで主に捧げたのです。なぜなら、彼らはこのような満足を得続けるだけでなく、良いわざにあふれる者へと神はしていつてくださるのです。神が喜ばれるわざを為し続ける者へと神は変え続けてくださるのです。神の充足、本当の満足、あなたが神の前を正しく歩んでいるなら、主を愛するゆえに、喜びをもって積極的に犠牲的に主に捧げているなら、主はこんな約束をあなたに与えてくださるのです。

3. 主への賛美 9-11節

9-11節「:9 この人は散らして、貧しい人々に与えた。その義は永遠にとどまる。」と書いてあるとおりです。:10 蒔く人に種と食べるパンを備えてくださる方は、あなたがたにも蒔く種を備え、それをふやし、あなたがたの義の実を増し加えてくださいます。:11 あなたがたは、あらゆる点で豊かになって、惜しみなく与えるようになり、それが私たちを通して、神への感謝を生み出すのです。」、パウロはここに神のみわざを記しています。

・詩篇 112 : 9 : 9節のみことばは旧約聖書の詩篇 112 : 9を引用しています。「彼は貧しい人々に惜しみなく分け与えた。彼の義は永遠に堅く立つ。その角は栄光のうちに高く上げられる。」と。神によって義とされたあなたを通して義なる神のみわざが為し続けられるということです。主によって罪赦されて義とされたあなたに主は働いて、義なるみわざを継続してくださるといのが9節で言っていることです。

・イザヤ 55 : 10 : そして、10節を見ると「種蒔き」のことが書かれています。「種蒔き」とは金銭的な援助のことです。パウロはここで「あなたのすべての必要を満たす」と言います。ですから、実際にあなたがそのように捧げ物をしていくために必要なものを主は与え続けてくださると言うのです。

11節「あなたがたは、あらゆる点で豊かになって、惜しみなく与えるようになり、」、今、見て来たように、主がひとり一人のうちに働くなら、その人は喜んで捧げる者になっていきます。「それが私たちを通して、神への感謝を生み出すのです。」、神は私たちを変えていつてくださる、私たちが神の前に喜びをもって神が望まれることを為していくときに、神は私たちを使ってみわざを為されます。義なる神があなたを通して義なるみわざを為してくださるし、あなたが人々の必要を満たし続けるための必要を神は与え続けてくださるし、このようなすばらしい良い働きを通して、人々はあなたのうちに働いている神を見ます。そして、人々はその神に感謝を捧げるようになる、こうして神の栄光が現わされていくということを言うのです。私たちはそのために生きています。神のすばらしさが世に証されて、人々がこの神を心から誉め称えるのです。そこでパウロはこう言いました。「あなたが主の前に正しく歩み続けていくなら、この捧げ物ということに関しても主はあなたを用いてくださり、ご自身の栄光を現わしていかれる」と。

結論

さて、まとめです。この捧げ物は次の二つのことを明らかにします。

(1) 主への信頼を明らかにする

あなた自身の主に対する信頼を明らかにするのです。私たちが覚えなければいけないことは、主はご自身のみこころを為すためにあなたの助けを必要とはしていません。あなたの捧げ物、献金がなくても主はご自身のみこころを為されます。私たちが絶対に間違っはならないことは、私たちが神の働きをお手伝いするという、それは大変なうぬぼれです。神は私たちの助けを必要とはしていません。この捧げ物はあなた自身の主への信頼を知る尺度です。どれだけあなたが主を信頼しているかの尺度です。なぜなら、今見て来ました。神はあなたのうちに働いてあなたの必要を満たすと云われました。そして、満たされた者はまたそれを主に捧げます。そして、主はそれを祝してくださる。みことばが教える生き方は、私たちが生きて来た生き方とはかなり違います。最初に話したように、私たちは自分で考えてしまいます。これだけの収入があってこれだけの必要がある、残ったものの一部を神にお返ししようと。神が教えておられるのはそのような生き方ではありません。私たちは喜びをもって神が為してくださ

た犠牲に信仰をもって応えるのです。主は私にこんな犠牲を払ってくださった、私はこれだけのものを主にお返ししたい、主は必ず私の必要を満たしてくださるという約束をくださった、だから、私は主を信頼しますと。だれかがあなたの家計を見て「それでどうやって生活するの？」と思うかもしれません。でも、信仰者の皆さんは経験されたでしょう。主は必要を満たしてくださったと。私たちが喜びをもって積極的に犠牲的に捧げるのは、必ず、神が必要を満たしてくださるという確信があるからです。私たちは通帳を見て、ある時は喜んだり、ある時は不安になったりと、そのような生活をするではありません。私たちは主の前に喜んで捧げようとします。その背後に「必ず、主が必要を満たしてくださる」という確信があるからです。しかも、私たち自身の心の中に本当の満足を与え続けてくださる。だから、私たちが喜んで捧げたときに言いようもない感謝が喜びが出て来ます。

(2) 主への忠誠を明らかにする

マタイ25章には、主イエス・キリストが天の御国についてタラントのたとえを話しておられることが記されています。主人がしもべたちに自分の財産を預けます。それぞれに5タラント、2タラント、1タラントを与えます。そのときに主人が問われたことは「私の命じたことに忠実であったかどうか」です。私たちクリスチャンが覚えなければいけないことは、私たちの持っているものはすべて神が与えてくださっているということです。私の収入もすべて神がくださっているのです。それを神の前に正しく用いるためにです。神は私たちに託してくださっている。それを神のために正しく用いるかどうかを問われているのです。忠実であるかどうかの問題であると言いました。主から託されたものを主のために正しく使っているか？賢く使っているか？

ご存じのように、私たちの周りには多くの必要があります。感謝なことに、神は私たちをいろいろな形で用いてくださっています。一人でも多くの方が福音のメッセージを聞くために、その必要のために、私たちは喜びをもって積極的に犠牲的に捧げ続けているかどうかです。神は賢く用いなさいと言われました。神のために用いなさいと言われました。私たちが献金について考えるときに、その金額よりも私たちの心を一度吟味してみてください。本当に喜びをもって捧げているかどうか？だれかに言われたからではなく、自ら積極的に喜びをもって、まさに、マケドニアのクリスチャンが恵みの行為、特権と考えて捧げたように、捧げているかどうか？余ったものを神に捧げていませんか？犠牲を払ってくださった主の犠牲、その愛に倣って、私たちも犠牲をもって主にお捧げすることです。そのときに、このような約束が主によって与えられるのです。神の祝福がある、神があなたを本当の満足で満たし続けてくださると。そして、神はあなたのその働きを通して、多くの人々が主への賛美を捧げるようにしてくださるのです。あなたが捧げてくださいから、主はそれを用いて人々が福音を聞くことになり、人々は主を称えるのです。

この捧げ物は大切です。大切だから正しくしなければいけません。どうぞ、みことばに沿って主に捧げ続けてください。主が喜んでくださることを私たちは願うからです。主はそれを用いて主のみわざを為してくださる、私たちはそのことを望んでいるのです。

《考えましょう》

1. 主がすべての捧げ物をお喜びになるわけではありません。それはどうしてでしょうか？
2. 主がお喜びになる献金を捧げる正しい心の態度について記してください。
3. 犠牲的に捧げることを主が喜ばれるのはどうしてですか？
4. 「神は、（あなたがたに）あらゆる恵みをあふれるばかり与えることのできる方です。（8節）」とは、どういう意味ですか？